

学校長様
英語科担当者様
ELEC 同友会英語教育学会会員各位

ELEC 同友会英語教育学会会長 本多敏幸
第 27 回研究大会実行委員長 八木孝之

E L E C 同友会英語教育学会 第 27 回研究大会

この度、E L E C 同友会英語教育学会第 27 回研究大会を、下記の要領で開催する運びとなりました。今年度もオンラインにて開催し、参加者の皆様とともに視野を広げ、英語教育を見つめ直す一日にしたいと願っております。オンラインでの実施になりますので、全国津々浦々から、多くの方が参加して下さることを期待しています。

1. 期日：2021 年 10 月 31 日（日） 8:30～16:40

2. 実施方法：遠隔会議システム Zoom（オンライン）

3. 参加方法および参加費：

<会員>

- ◆ 参加申込 ⇒ 学会 HP または右の QR コード（参加申込①）より
- ◆ 会員は無料（今年度の会費が未納の方は 5,000 円お振込みください）
- ◆ 新規の会員の申込は学会 HP より

<一般>

- ◆ 参加申込 ⇒ 学会 HP または右の QR コード（参加申込①）より
- ◆ 一般参加費は 2,000 円（非会員として研究大会のみの参加）

<大学生>

（1）「ビデオによる公開授業」（学生会場）のみの参加（無料）

- ◆ 参加申込 ⇒ 学会 HP または右の QR コード（参加申込②）より

（2）学生会員（全プログラムに参加可能）

- ◆ 参加申込 ⇒ HP または右の QR コード（参加申込①）より
- ◆ 新規の学生会員の申込は学会 HP より

※学生会員（学部生に限る）は年会費 1,000 円（本学会のイベントに会員資格で参加可能）

参加申込①



会員・一般・学生会員

参加申込②



学生会場

■ 参加費・年会費のお振込み ■

- みずほ銀行九段支店 ●（普）1 7 0 0 5 4 5
- 口座名：ELEC ドウユウカイエイゴキヨウイクガツカイジム ● 振込手数料はご負担ください

※参加申込登録および参加費・年会費のお振込みは 10 月 28 日（木） が期限となります。

4. プログラム（詳細は変更になる可能性があります）：

8:30	受付開始	12:50～13:40	研究部会発表Ⅱ
9:00～9:10	開会行事	13:50～14:40	研究部会発表Ⅲ
9:10～10:20	講演	14:50～16:30	ビデオによる公開授業（学生会場）
10:30～11:20	研究部会発表Ⅰ	14:55～16:30	ビデオによる公開授業（一般会場）
11:30～11:45	会員総会	16:30～16:40	閉会行事
11:55～12:50	昼食		

5. 内 容：

◆講演（9:10～10:20）

題目：「ICT 教育の未来～問いの創造～」 講師：正頭英和（立命館小学校）

GIGA スクール構想により、1人1台のPC環境が整いました。「ICTを活用した教育が当たり前になったとしたら、教育はどのように変わっていくのか？」という大きな問いに対して、私は「PBL（Project Based Learning）」という一つの仮説を立てています。その時、とても重要になるのが「問いの立て方」になります。本講演では、「ICT活用の本質とポイント」と「問いの創造」のための具体的な方法をご紹介します。ただきたいと思います。

◆研究部会発表Ⅰ（10:30～11:20）

＜音声指導研究部会＞「音声指導に使われる『ことば』の吟味」

think や thank の"th"の音の出し方を、どのように生徒・児童に説明しますか？英語の音素、特に日本語の音から距離のある音素を説明するとき、私たちはそれぞれに工夫をし、意外に多様な解説や例えを使って説明しています。教科書から一般語学書、デジタル教材から昔の「基礎英語」まで、教材や講座で音声指導に使われている「ことば」を見てみると、教材間の共通点と相違点など興味深いことが見えてきます。今回の発表では、いくつかの音素について指導に使われる「ことば」を検証し、発音指導の幅を皆さんと共に広げていきたいと思います。

発表者：宇佐見京子（台東区立柏葉中学校） 尾崎ちひろ（佐世保工業高等専門学校）
田中敦英（桐朋中学校・高等学校） 中村剛世志（学習院女子中・高等科）
松津英恵（東京学芸大学附属竹早中学校）

＜語彙指導研究部会＞「語彙を覚えるときの例文の意義」

語彙を覚えるときに、例文はあってもなくても変わらない、という先行研究の結果を受け、どのような条件の下であっても本当に例文はあってもなくても変わらないのかを検証します。例えば英語力上位の生徒が語彙を覚える場合と英語力下位の生徒が語彙を覚える場合とでは、例文はあったほうがいいのか、ないほうがいいのか（例文は短期記憶にはじゃまになるのか）などを、統計をもとに考えていきます。また、単語の覚え方や例文に対する生徒の考え方をアンケートにとり、生徒が例文を単語を覚えるのに使っているかどうか明らかにします。

発表者：岡田順子（元埼玉県立朝霞高等学校） 宮島盛明（新潟県立三条東高等学校）
渡辺政寿（上越教育大学） 菅原直弥（東葉高等学校）

◆研究部会発表Ⅱ（12:50～13:40）

＜ライティング研究部会＞「自律的な書き手の育成のための self-checklist の活用」

ライティング指導の主たる方法の1つとして「添削」が挙げられますが、指導の最終目標は、添削を受けずに、求められるレベルの英文を自力で書くことができる生徒を育成することです。そのためには、直接的な指導と言える添削から、徐々に間接的な指導に移行することが必要となります。その途中段階として、教師が用意した self-checklist を活用することを提案します。self-checklist の中身やその活用方法などについて、具体例を紹介します。

発表者：工藤洋路（玉川大学） 石毛順子（豊橋技術科学大学） 加藤洋昭（聖徳大学）
木幡隆宏（目白大学） 齊藤澄江（埼玉県立鴻巣高等学校） 松岡まどか（横浜雙葉高等学校）

＜評価研究部会＞「思考力・判断力・表現力から見た項目の機能分類～大学入学共通テスト Reading」

思考力・判断力・表現力を「測る」とはどういうことか。現場での作問上工夫すべきこととは、本来どのようなことになるのだろうか。共通テストリーディング問題（第一日程）を対象に学習指導要領の目標文との対応を見ながら機能分類をしてみることで、このテーマへのアプローチを試みます。まだまだ未知の分野ですが、各現場の変容や工夫についてオーディエンスの皆さんともシェアできればと考えています。

司会者・発表者：岩瀬俊介（学法石川高等学校・石川義塾中学校）

発表者：中村隆（明治学院高等学校非常勤）

荒川高広（千代田区立九段中等教育学校）

今田健蔵（東京大学教育学部附属中等教育学校）

黄俐嘉（世田谷区立緑丘中学校）

鈴木省三（東京都立足立東高等学校）

鈴木千貴（横浜市立横浜総合高等学校）

高杉達也（東京都立小石川中等教育学校）

藤崎美佳（沼津市立沼津高等学校）

矢野郁（東京都立江北高等学校）

＜リーディング研究部会＞「改定後検定教科書における発問分析と効果的な発問例」

本部会では、学習者の本文理解を促す効果的な発問を研究しています。特に、字義的な理解に留まらない、解釈的な「深い」理解へとつなげていくために、推論発問が重要であることを指摘してきました。本大会発表では、今年度より検定教科書が改訂されたことを受け、まず①中学校の教科書に掲載されている本文理解を問う質問文を発問力カテゴリに関して量的に分析した結果を批判的に考察します。次に、②学習者の本文理解を効果的に促す推論発問例を提示し、③実際の授業データを元にした生徒の学習過程の質的分析とその考察を行います。Zoomでの開催となりますが、チャット機能等も活用した双方向型の議論も予定しております。

発表者：平川新（東京大学大学院）

渡邊聡大（海城中学高等学校）

伊藤智子（練馬区立大泉学園中学校）

遠藤康子（小平市立小平第二中学校）

尾張至伸（弘前市立北辰中学校）

竹野芳弘（杉並学院高等学校）

◆研究部会発表Ⅲ（13:50～14:40）

＜オーラルアプローチ研究部会＞「授業パッケージ・高等学校・復習編」

「英語で授業を行う」ための基本的な技術である「オーラルイントロダクション」と「パターンプラクティス」について研究しています。現在は導入から復習、そして言語活動まで、様々な先生方が参考にできる「授業パッケージ」の作成を行っています。今年度は高等学校の授業の復習にあたり、Retelling や Discussion につなげるための、教科書本文を使った3つのパターンプラクティスである、expansion（文に修飾語句を付け加える）、conversion（肯定文から疑問文を作る）、selection（疑問文に対する応答文を作る）を提案します。

発表者：安部智秀（練馬区立大泉中学校）

宮崎太樹（日野市立日野第一中学校）

実演者：樋口はる菜（国立市立国立第一中学校）

吉田直人（相模原市立清新中学校）

＜実践研究部会＞「中・高連携を考えた領域統合型の言語活動 ―読むことから話すことへ―」

昨年度から引き続き領域（技能）統合型の言語活動について発表します。今回は「読むことから話すことへ」の言語活動のうち、リテリングについて取り上げます。リテリングは多くの先生方が行っている活動だと思われます。中学生の段階から高校生の段階までどのような活動形式があり、どのように指導を行えばよいのか、32名の部員で考えた具体例を紹介します。

司会者・発表者：本多敏幸（千代田区立九段中等教育学校、ほか）

発表者：石井亨（文京区立第十中学校）

楠本正義（札幌市立栄南中学校）

白井靖子（江東区立深川第八中学校）

日高由美子（東京都立立川国際中等教育学校）

＜小学校英語教育研究部会＞

「小学校英語における受信・発信技能の評価で「思考・判断・表現」をどう測るか」

小学校英語の教科化に続き、中学校でも新しい学習指導要領に基づく評価が行われるようになり、観点別学習状況評価での5領域を踏まえた3つの資質・能力の評価に関する議論が高まっています。「知識・技能」と「思考・判断・表現」はどう異なるのか、発信技能のパフォーマンス評価だけでなく、ペーパーテストによる受信技能でのルーブリック活用の可能性も含めて、「生きた力」を評価する工夫を考えます。

発表者：長沼君主（東海大学）

松崎奈穂（上尾市立原市南小学校）

羽田あずさ（横須賀市立田戸小学校）

幡井理恵（昭和女子大学附属昭和小学校）

◆ビデオによる公開授業（一般会場 14:55～16:30／学生会場 14:50～16:30）

「高校3年生の授業」 授業者：笹生綾子（東京都立日比谷高等学校）

生徒同士、および教師・生徒間のインタラクションをベースに構成した高校3年生の授業です。これまで、生徒自身に英語を使わせるという視点を大切にしてきました（1年次にはプレゼンテーション、2年次にはディベートを学年全体で行うなど、アウトプットの機会も確保してきました）。本授業では、即興的なやりとりを通して、時事的・社会的なトピックに対して生徒が自分の考えを自由に述べるなかで、生徒同士の学びあいや教師からのフィードバックにより、より深い学びにつなげていくことがねらいです。

【一般会場】解説者：三浦幸子（都留文科大学）

【学生会場】解説者：工藤洋路（玉川大学）

6. 協賛企業（五十音順）

株式会社 いいずな書店

オックスフォード大学出版局 株式会社

開隆堂出版 株式会社

教育出版 株式会社

株式会社 桐原書店

株式会社 三省堂

株式会社 シェーンコーポレーションネリース事業部

株式会社 新興出版啓林館

株式会社 鈴木楽器製作所

セイコーソリューション 株式会社

株式会社 大修館書店

東京書籍 株式会社

ベネッセ教育総合研究所

光村図書出版株式会社

7. その他

- Zoom への接続方法等は、申し込み完了後、メールにてご連絡差し上げます。受信制限等の設定にご注意ください。
- 通信費用は参加者のご負担となります。
- 通信環境につきましては、参加者ご自身の責任となりますので、事前の通信環境等のご確認をよろしくお願いいたします。

8. 問い合わせ先 E-mail: elec_taikai2021@elecfriends.com 八木孝之（ヤギ タカユキ）